

# 学術研究の倫理と経済社会の倫理



講演者：中川義行

2017年5月16日(火) 13:00～14:00  
広島大学理学部B707教室



# 経済社会の倫理の概要

- 経済社会の安定を維持するための知恵
- 行動に対する社会からの快・不快が判断基準
  - 時代情勢
  - 社会制度
  - 文化背景
  - 群集心理
- 客観性や普遍性はない
- マスメディアによる群集の認知バイアスの影響も受ける
- 事実と規範の混同や論理的自己矛盾も日常茶飯事

# 倫理の派生系

- 道德
  - 次世代の精神的支配体制を築くための規範
  - 先人の暗黙知や、地域の宗教などと密接な関係
- 哲学
  - 倫理と普遍性の融合を模索して発生した学問
  - 歴史的には自然科学も哲学から分離派生
- 宗教
  - 普遍的事実に対する考察許可範囲を限定
  - 懐疑者の排他や狂信化(思考停止)の危険性

# 職業倫理の概要

- 専門性が共通するより狭い人間社会での倫理
- 職業活動で遵守されるべき基準
- 1980年頃から一般の経済社会の倫理から独立
  - 職種習慣の影響で強い偏りがある
  - 経済社会の倫理からの逸脱も少なくない
  - 関連職種の職業倫理と相互影響
  - 組織利益追求や組織維持が優先されがち
- 学術研究の倫理は，明文化が模索されつつある
- 日本の学術研究倫理は政財官に押し切られている

# 法令の概要

- 経済社会における倫理の最大公約数の明文化
- 「社会的責任」「逸脱に対する罰則」も明文化
- 逆に「免責事項」「無制限の罰則の禁止」の規定
- 一部の職業活動には足枷となる可能性もある
- 時代とともに複雑化
  - 学問や技術の発達に伴う事実の発覚
  - 国益や組織間の利益とのバランス調整
  - 既存の法令との整合性のための強引な解釈
- 社会問題の発生よりも後手に回る傾向がある

# 倫理逸脱の誘因について

- 職業倫理や法令遵守が基本
- 倫理逸脱や法令違反の利益 > 発覚時の損失 → 逸脱
- 外部告発リスク回避のために組織的隠蔽
  - 第三者委員会は組織外の倫理基準が強く影響する
  - 急激な変革要請で本来の活動に重い足枷の可能性
  - 社会的信用という組織利益を大きく損なう
- 組織内部に対立があれば内部告発リスクが高い
  - 法令に依らない対立相手の社会的追放
  - 思い込みや捏造による告発で自滅することもある

# 学術研究の倫理の概要

- 学術研究の伝統的な倫理
  - 客観性・普遍性・新規性・再現性などの追求
  - 短期的展望よりも長期的展望を重視
  - 自然環境・社会環境・人権などの保護
- 研究資金出資者からの要請される倫理(食客的地位)
  - 人類普遍の利益ではなく出資者の利益極大化
  - 地域社会の文化レベル向上や経済的活性化に寄与
  - 時には曲学阿世を甘受せざるを得ない
  - 出資者の倫理逸脱や法令違反のスケープゴート

# 学術研究における倫理逸脱

- 学術的不正の例

- データの捏造・改竄や他人のデータの無断盗用
- 自分の主張に合うデータだけを作為的に集める
- 未発表のプレプリントから盗作
- 論文の捏造や多重投稿による業績数稼ぎ
- 競合する研究者への讒言や誣告
- 査読者の連絡先を捏造して自画自賛
- 研究者の慢心に由来する各種ハラスメント
- データ収集のために法令違反

# 学術研究における倫理逸脱

- 資金的不正の例
  - 研究目的と異なる用途への**研究資金の流用**
  - 架空の出張や**納品書偽造**による**資金プール**
  - 利益相反行為による**リポート**など
    - 出資者が有利になるように不公正な評価
    - 反社会団体への破壊行為助長情報の提供
    - 出資者の競合相手を脅迫してその口止め
  - 研究設備の**無断貸出**
- これらの不正には基本的に研究権利の剥奪となる

# 将来的に気を付けるべきこと

- 自分だけは大丈夫という自己暗示を警戒すること
  - 研究においてもミスは不可避だから正直に訂正報告
    - 2012年の論文撤回理由で凡ミスは 21.3%
    - 捏造または捏造疑惑は 43.4%
    - 多重出版は 14.2% ← 英語圏以外に多い
    - 盗作または盗作疑惑は 9.8%
  - 一度でも不正に手を染めると糊塗のために何度も行う
  - 不正が発覚したら遡及調査を受けることになる
  - 資金的不正は社会的に追放される可能性を覚悟のこと